

# あなたがここにいるから...2nd



今日は、文字ばかりですみません…。

## 校長雑感～新年度の様子から…

一日に数回、校舎内をぐるぐると歩き回ることが私の日課の一つです。

歩き回りながら、各学級も訪問し、雪小っ子の学びの様子を観察しています。

ある日、2階、1年生の教室に立ち寄りました。

担任がていねいに「鉛筆の正しい持ち方」を指導していました。今後、ひらがなの学習が始まります。正しく鉛筆を持つことは、すべての学習の基本の「き」です。

どの子も真剣な表情で、自分の持ち方と先生や隣の友達とを見比べています。

その後、3階に上がると、5・6年生複式では、算数の学習に取り組んでいました。

5年生は小数、6年生は円の応用問題でした。どちらの学年も、なかなか難しい問題が提示されていますが、昨年から取り組んでいる本校ならではのガイド学習「雪スタイル」により、自分たちでしっかりと学びを進めています。

一人一人粘り強く思考した後、友達と活発に意見を交わし合う高学年の姿を見ながら、あらためて考えました。

「この子たちも、1年生の時には、鉛筆の持ち方から学んだんだよな。」

翌朝、登校した1年生に6年生がそっと駆け寄り、玄関前でのあいさつの仕方を教えていました。朝の立哨が終わり、1年生の教室に向くと、すでにたくさんの高学年の子供たちが、1年生のお世話をしていました。

ある高学年の子は、登校後、1年生がランドセルから道具を取り出し、机の中にしまうのを手伝っています。また、別の子は、ランドセルを教室後ろの棚にきれいにいれるよう、やさしく声をかけています。一方、トイレに付き添い、1年生のトイレが終わるまで待ち、スリッパの並べ方を教える高学年の姿も見えます。

そんな子供たちの姿を見ながら、小学校6年間という発達段階の幅の広さ、そして、そういう子供たちが同じ学び舎で一緒に生活を送ることの意義をあらためて実感しています。

「やっぱり、学校っていいところだな。」

「学校って、すてきだな。」

## 雪浦ウィーク、雪小っ子も参加します。

今年度、3年ぶりに「雪浦ウィーク」が本格開催されることが決まりました。そこで、「地域とともにある」雪浦小学校では、学習の一環として、5月2日（金）に子供たちもウィークに参加することとしました。

目的は、次の3つです。

- ① 雪浦ウィークへの参加を通して、地域について学び、地域のよさを知る機会とする。
- ② 地域の様子や状況を知るとともに、地域を愛する人々の思いに触れる。
- ③ 本校伝統のケーナの演奏をはじめ、これまでの学習の成果を多くの人に発表する機会とする。

私としても、子供たちのふるさと学習の一環として、絶好の機会ととらえています。

具体的には、低・中・高学年それぞれが3つのコースに分かれ、教員の引率のもと、各施設や店舗を訪ね、地域の方やお客様を対象に、これまでに学習した歌や演奏を披露します。（ルートは、別途配布したプリントでご確認ください）。

保護者の皆様には、お弁当や準備物等、何かとご苦労をおかけしますが、どうか学習の目的をご理解いただき、御協力をお願いいたします。

また、ご都合がつかれる方は、ぜひとも子供たちの活躍の様子をご覧いただきたく思います。

どうぞよろしく申し上げます。（文責 校長）